

PROGRAM

グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

Mikhail Glinka : "Ruslan and Lyudmila" Overture

約5分

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18 ★

Sergei Rachmaninoff : Piano Concerto No. 2 in C minor, op. 18

約34分

第1楽章 モデラート Moderato

第2楽章 アダージオ・ソステヌート Adagio sostenuto

第3楽章 アレグロ・スクエルツァンド Allegro scherzando

休憩(20分) Intermission

ムソルグ斯基(ラヴェル編曲)：組曲「展覧会の絵」

Modest Mussorgsky (arr. Maurice Ravel) : Pictures at an Exhibition

約35分

プロムナードI Promenade

I. こびと Gnomus

プロムナードII Promenade

II. 古城 Il vecchio castello

プロムナードIII Promenade

III. テュイルリー Tuileries

IV. ブイドロ(牛車) Bydlo

プロムナードIV Promenade

V. からをつけたひなのバレエ Ballet des poussins dans leurs coques

VI. サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ Samuel Goldenberg und Schmuyle

VII. リモージュの市場 Limoges - Le Marché

VIII. カタコンベ(ローマ時代の墓) Catacombe (Sepulcrum Romanum)

死者とともに死者の言葉で Cum mortuis in lingua mortua

IX. バーバ・ヤガーの小屋 La Cabane sur des pattes de Poule (BABA-YAGA)

X. キエフの大門 La grande porte de Kiev

PROGRAM NOTE

小味渕 彦之(音楽学、音楽評論)

ロシアの音楽は息の長いメロディと粘りのある響きの積み重ねが特徴的です。もちろん一括りにはできないほどの多様性があるのですが、こうした特徴から生まれる感情の振幅の激しさと果てしないスケール感は、どの作品にも共通するように感じます。

本日のPACの特別演奏会の指揮は、楽団の誕生以来強い関係性を培ってきた下野竜也が務めます。そして、こちらは初登場となる北村朋幹がピアノの独奏者に登場します。どんな音楽が生まれるのでしょうか。

グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

たまらない疾走感が魅力的な曲です。随所に打ち込まれる小気味好いティンパニの響きにも注目しましょう。

ミハイル・イヴァノヴィチ・グリンカ(1804-57)は「近代ロシア音楽の父」という説明が一般的です。このオペラ「ルスランとリュドミラ」の〈序曲〉が飛び抜けてよく知られています。

オペラは、1842年(38歳)に初演された全5幕の長大な作品で、古代のキエフ公国が舞台。悪魔チャエルノモールに連れ去られたキエフ大公の娘リュドミラを助けだそうと、3人の求婚者が奮闘します。救出に成功したルスランとリュドミラは幸せに結ばれるという筋書きです。〈序曲〉にはオペラの各場面の音楽が使われました。ルスランが悪魔を倒してリュドミラと結婚するフィナーレ(第5幕)の音楽が軸に据えられています。

樂器編成

フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、コントラ・バスーン、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、弦楽5部

指揮：下野竜也 Tatsuya Shimono, Conductor

ピアノ：北村朋幹 Tomoki Kitamura, Piano (★ 演奏曲)

管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団

※演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18

冒頭から深い響きでロシアの鐘が鳴りわたります。ヨーロッパの街では教会の鐘が時を告げる身近な存在ですが、この中でもロシア正教会の「鐘」は特徴的です。大小様々な鐘が組み合わされて独自の音色が連なります。

セルゲイ・ラフマニノフ（1873-1943）はロシアの作曲家ですが、生前は作曲家として以上に、ヴィルトゥオーソ（名人芸）・ピアニストとして知られていました。作品の音楽的な評価が確立したのは、概ね生誕100年を迎えた1973年以降のこととされています。それまではこの《ピアノ協奏曲第2番》と「鐘」のニックネームで知られるピアノ曲の《前奏曲 嬰ハ短調》（op.3-2）が飛び抜けてよく知られていたが、その評価は大衆の受けがよい通俗的な音楽という扱いでした。ラフマニノフは独奏ピアノとオーケストラのための協奏作品を5曲、残しています（協奏曲が4曲と《パガニーニの主題による変奏曲》）。

1897年3月に最初の大作であった《交響曲第1番》の初演に失敗したラフマニノフは、大きなダメージを受けました。従来はこれが1900年初頭から受けたニコライ・ダーリによる催眠療法で一気に回復したような印象で語られてきましたが、どうやら少々ニュアンスが異なるようです。治療を受ける時点で酷評された演奏会からは3年近くが経過していることになるのですが、その間には活発な指揮活動を行っていたことが指摘されていて、活動ができないという状態ではなかったのです。《ピアノ協奏曲第2番》は1901年（28歳）に完成しました。

とろけるように甘いメロディがこの作品の最大の魅力であることは、従来から認識されています。『逢いびき』（1945年・イギリス映画）をはじめ、映画にはたびたび使われてきました。ポピュラー音楽の分野でもエリック・カルメンが歌う《オール・バイ・マイセルフ》（1975年）など、いくつものナンバーでこの作品の甘いメロディが引用されました。また近年はたびたびフィギュアスケートでも用いられて、華麗な演技を彩っています。

3つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉の冒頭は前述した鐘がピアノだけで

深く打ち鳴らされます。分散和音（アルペジオ）になった後は、独奏ピアノとオーケストラが一体となって奏でられていきます。〈第2楽章〉の移ろいゆく色彩感は、柔らかで抒情に満ちた響きにあふれます。〈第3楽章〉では晴れやかに澄み切った空のように、颯爽たる音楽が奏でられます。

楽器編成

独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦楽5部

ムソルグ斯基（ラヴェル編曲）：組曲「展覧会の絵」

オーケストラが奏でる色彩感の変化を味わうのにぴったりな作品です。万華鏡のように変化する響きの色合いを楽しむことができます。

19世紀後半のロシアに生きたモデスト・ペトロヴィッチ・ムソルグ斯基（1839-1881）の《組曲「展覧会の絵」》は、建築家、デザイナーのヴィクトル・ハルトマン（ガルトマン）の遺作展に並んだ絵画から主にインスピレーションを得て作曲されたピアノ独奏曲です。なお、一部の絵は未だに特定されていません（存在しない可能性もあります）。1874年（35歳）に3週間で書き上げされました。

原曲はピアノ独奏曲ですが、本日お聴きいただくのはフランス近代の作曲家であるモーリス・ラヴェル（1875-1937）がオーケストラ曲に書き換えたもの。ロシアとフランスのハイブリッド作品というわけです。指揮者のセルゲイ・クーセヴィツキーの依頼により、ラヴェルはこの作品を手掛けることになりました。1922年（47歳）に完成し、同じ年の10月に、クーセヴィツキー指揮によってパリのオペラ座で初演されています。

作品は印象的な〈プロムナード〉で始められます。これを間奏曲のように挟みながら（1, 2, 4, の後。8に続く部分は「死者とともに死者の言葉で」と題され、プロムナードと共通の主題が用いられます）、10枚の絵が連なります。〈1. こびと〉は「グノーム」という地中の財宝を守る土の精。〈2. 古城〉では中世の吟遊

詩人が歌うように、ひなびたメロディが、アルト・サクソフォーンで奏でられます。〈3. テュイルリー〉はパリにある公園の名前。並木の小径で子供が遊んでいます。〈4. ブイドロ〉は牛に牽かれた巨大な車輪の荷馬車のこと、ソロをテナー・チューバが担います。〈5. からをつけたひなのバレエ〉はまさに題名通りの可愛い絵で、バレエのための衣装のデッサン。〈6. ザムエル・ゴールデンベルクとシュミレ〉は、ユダヤ人の裕福な男と貧しい男が対照的に描かれました。〈7. リモージュの市場〉はフランス南西部の町の市場で、女たちがペチャクチャとおしゃべりをします。〈8. カタコンベ〉は無数の頭蓋骨が並ぶ地下墓地で、ハルトマンへの鎮魂歌となりました。〈9. バーバ・ヤガーの小屋〉はロシアの妖怪が住む小屋が、ニワトリの足の上に建っています。〈10. キエフの大門〉はスラヴ風の丸いドームが印象的な建築用の下絵。ロシアの鐘が高らかに鳴り響きます。「プロムナード」ばかりが知られてきたこの作品ですが、日本ではこのフィナーレがテレビ番組に使われて、一躍有名になりました。

楽器編成

フルート3(ピッコロ持替2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット2、バス・クラリネット、アルト・サックス、バスーン2、コントラ・バスーン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン、テナー・チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、スネア・ドラム、グロッケン、シロフォン、タムタム、鐘、トライアングル、ラチェット、鞭、ハープ2、チェレスタ、弦楽5部

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。

※音や警報音の鳴る機器(補聴器、アラーム付時計等)をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意願います。

※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。

※演奏中の会話、客席内でのご飲食はご遠慮ください。

新型コロナウイルス感染防止に関するお願いとお知らせ

- ・必ず指定されたお席でご鑑賞ください。
- ・ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。(マウスシールド不可)
- ・ブラーなどの声援や、大きな声での会話はお控えください。
- ・途中で退出されると、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。
- ・終演時は、分散してのご退場にご協力ください。
- ・客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。

当センターウェブサイトより、
アンケートへのご協力ををお願いいたします。
右記QRコードを読み取って
公演カレンダーへアクセスしてください。
(公演翌日から2月16日まで)



「兵庫県コロナ追跡システム」

をぜひご利用ください。
館内掲示のポスターより
QRコードを読み取ってご登録ください。